

QUESTORY'S MESSAGE

「東北太平洋沖巨大地震」で感じる事



被災された皆様に心からお見舞い申し上げます

3月11日(金)に、東北地方太平洋沖で起きたマグニチュード9.0という観測史上最大の地震による被災の広さと深刻さにはただただ驚くばかりです。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、不幸にして亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。そして救援を待つ人たちが、一時も早く安全な場所に逃れられることを願っています。

地震発生時にメンバー全員が社内で業務をしていました。弊社はビルの6階にありますが、かつて感じたことがない揺れと衝撃に騒然としました。棚の上のものが落ち、ガラス製品や台所の食器が割れ、女性メンバーはテーブルの下に逃れました。長い揺れが収まった後、非常階段を使い、すぐ近くの公園に全員無事に避難しました。

2時間ほど公園で様子を見ましたが、その間にも余震が続き、携帯電話も通じませんでした。会社に一旦戻りましたが、公共の交通機関が動いていないため帰宅が出来ません。11時近くまで社内で待機し、その後、徒歩と動き出した電車で12時過ぎに全員帰宅することが出来ました。震度5の東京でこういう状態ですから、被災地は本当に大変だったと思います。

混乱の中、Twitterは安定した通信手段でした

地震については様々な形で報道されていますので、安易な論評は避けませんが、携帯電話が通じなかったことには、私も含めて多くの方々が不自由されたと思います。しかし、携帯のメールやTwitterは通じました。お取引先の方々からも“大丈夫ですか?”とメールやTwitterで連絡をいただきました。本当にありがとうございました。

とくにTwitterは携帯電話やスマートフォンでも使え、他の通信手段と比べて安定していました。怪しい情報もありますので十分に精査する必要がありますが、帰宅時の避難場所や交通機関の運行情報などはリアルタイムで更新され、大いに役立ちました。Twitterに流れるタイムラインも、通常の数倍ではなく非常に早かったことも驚きでした。

また、TwitterではNHKのニュース画面を直撮りしたものをUSTREAMで中継していました。しかも、これを中継していたのは広島の中学生。お母さんが阪神淡路大震災で被災され、何とか役に立ちたいという思いから中継したのだそうです。厳密には著作権の問題などもあるようですが、NHKも中継を承諾し、TwitterでこのUSTREAMのサイトを知らせていました。

精神的な負のスパイラルに陥らないこと

こういう状況の中で大事なことは、まずは一人ひとりが出来ることをしっかりと見定めて行動することだと思います。弊社も社内の電気を半分にして節電に協力しています。何よりも社員の安全が第一ですので、避難方法と緊急時の連絡手段の確認をしました。避難時に必要な品もリュックにつめ、すぐに持ち出せるようにしました。

確かにこの悲惨な状態を見ますと胸が痛みますが、むやみな過剰の反応は禁物だと思っています。いたずらに不安や混乱を引き起こすような行動は慎まなければなりません。また不確定要素のことを憶測で語るのも風評被害を招くだけです。“悲惨な状態→予定していたことも中止→商売やビジネスがダメだと悲観”という精神的な負のスパイラルに陥らないことです。

先日開催しました第23回ブランディング・セミナーでも述べましたが、企業の目的は“社会に貢献すること”です。社会に貢献するためには利益が必要であり、また社会に貢献した結果の対価として利益を得ることが出来ます。大変ないまこそ、ご自分の仕事を通じて“まわりをいかに幸せにすることが出来るか”が問われているように感じています。

いまこそ日本人の絆の強さを示すとき

多くの海外メディアが地震の被害を伝えると同時に、冷静に助け合いながら行動している日本人を高く評価しています。米国のCNNは、秩序を守ってコンビニに列を作る写真を掲載し、それを称賛しています。中国メディアも“日本の民衆の落ち着きが強い印象を与えている”(第一財經日報)“日本人はなぜこんなに冷静なのか”(新京報)と報じています。

ロシアの独立系紙ノーバヤ・ガゼータ(電子版)は13日までに、大震災の甚大な被害にもかかわらず日本人が社会的秩序を失わず、互いに助け合う姿を“日本には最も困難な試練に立ち向かうことを可能にする人間の連帯がいまも存在している”と称賛するゴロブニン・タス通信東京支局長の記事を掲載しています。

11日の夜、交通が止まり、多くの人々が帰宅の足を奪われた東京では、レストランや商店がペットボトル入りの飲料水を無料で提供し、トイレを開放していました。遅れていた電車にも譲り合いながら乗車しています。“みんな大変だから”という言葉を目にするたびに、日本人の絆の強さを実感しています。どうかお互いに力を合わせてがんばりましょう。